

刊行にあたって

1991年の大学評価基準の大綱化と並行して、教育研究水準の向上を目指して、自己点検評価さらには第三者評価への動きが加速してきた。大学の担う教育研究事業の重要性に鑑みて、これらの努力が必須であることは言うまでも無い。

津田塾大学では1994年に全学自己点検・評価委員会が発足した。津田塾大学自己点検・評価実施規則の第2条は、「本学が自ら行なう点検及び評価は、本学の教育研究水準の向上と教育研究活動の活性化を図り、もって本学の社会的使命を達成するために実施するものとする」と述べている。翌1995年、最初の自己点検・評価項目の点検・評価が行なわれ、1996年3月には専任教員の1994年度までの「研究活動」を取りまとめた「研究活動報告書」が公表された。1997年3月には、専任教員の「研究活動」以外の自己点検・評価項目に重点をおいた報告書を取りまとめ、「自己点検・評価報告書」として公表した。2000年3月には、「研究活動報告書」と「自己点検・評価報告書」を一冊に取りまとめた総合的な「1999年度版 自己点検・評価報告書」として公表された。

本報告書は、2003（平成15）年度において、(財)大学基準協会の相互評価を受けることを目的とし、そのための資料として準備したものである。したがって、本学が準備した第三者評価のための包括的な報告書として、大学基準協会の指針等をもふまえ、全学の努力を結集して制作された。その結果、2004年3月5日に大学基準協会より、その大学基準に適合したとの通知を受けることができた。しかし、今回の総体的にポジティブな評価に決して満足することなく、評価結果、特にその勧告や助言を真摯に受け止め、厳しい自己点検を続けて、本学の教育研究ならびに組織のさらなる改善に努めたいと思う。

おわりに、本報告書の作成に参画して下さった大学の構成員すべてに心からお礼を申し上げますとともに本学の全構成員が本報告書ならびにそれに対する大学基準協会の評価から貴重な示唆を得ることを望んで止まない。

2004年3月

津田塾大学

学長 志村 尚子